ぎんまい長岡京

長岡京吟詠会　会報
第63号　令和6年5月1日
発行　長岡京吟詠会
会長　本庄賀秀峰

令和６年度　第一回定期発表会終る

4月7日（日）、今年第一回の定期発表会が、桜花満開の快晴の中こらさを会場に、25人の出吟者と8人の聴講者で行われました。（出吟申込者のうち６名が欠席）

今回は、「特別指導」の希望者がなかったので、最後に横山先生から皆の吟詠を聞いて感じた事、気を付けてほしいことなど、詳細に亘ってご指導がありました。

詩文は並べないで語るように。詩文の最後の詠音符は、母音にしてから響かせて詠う。1音目と２音目は切る。決してずり上げはしない。頭高の言葉を強く出さない。等々。

参加者からの質問で、「入れ付き上あげ」と、入れのない上あげの吟じ方の違いについても教えて頂きました。

（研修部）

第43回 全国吟詠コンクール京都府大会終る

４月14日（日）、ラボール京都で全国吟詠コンクール京都府大会が開催されました。

幼年の部で、高橋拓来君が優勝されました。

一般の部は、当初８名の申し込みだったのですが、内３名が欠席。５名の参加者は健闘及ばず、賞は逃しました。次に向けてさらに、お稽古に励んで頂きたいと思います。

（事務局）

昇格おめでとうございます！！

この度５月1日付で、次の方々が昇級されました。

おめでとうございます。

さらに上を目指して、楽しく稽古に励んでください。

中　伝	小垂喜子（秀邦詩吟クラブ）
	和島一行（長天詩吟クラブ）
奥　伝	市川富美子（邦山詩吟クラブ）
四　段	土江三佐子（下海印寺詩吟クラブ）

（敬称略、事務局）

令和６年度 一般研修会に多数のご参加を！！

来る５月26日（日）13:30から“こらさ”で行われます。

今回は、総本部普及部長の小川賀淳豊先生から「和歌・俳句」についてご指導頂きます。

研修内容は、和歌・俳句の栞をテキストにして、「音取り」「詠音符と詠じ方」「実技指導２名」の予定です。

多数の皆様のご参加をお願い致します。　（企画部）

シリーズ　その５ 【京の三代天満宮をご紹介】

奥 堂秀信

『北野天満宮』

全国12，000社ある天満宮社の総本社です。

門前より続く御前通は、紆余曲折ながら城南宮まで続く7Kmの南北通り。

1587年、北野大茶会が豊臣秀吉の威光で、全国より大名、茶人が集めら開催されましたが、1度きりの開催で失敗に終わりました。

その後、子供の秀頼に命じた神宮建物（国宝）の復活が結実しました。

安土桃山時代の作で、天神美術の殿堂として貴重な御神宝類、文化財を多数所蔵しています。

『菅原大神宮（菅大臣天満宮）』

阪急烏丸駅の南西にある菅原道真の実家跡です。紅梅殿ともいわれる屋敷跡で、道真公が産湯で使ったといわれる井戸などもあり和歌『東風吹かば』の木と言われる紅梅が5月には実を付けます。　仏光寺通を背に、南北2町、東西1町の屋敷でした。

『長岡天満宮』

菅原道真が太宰府へ左遷されたとき、従者を務めた中小路宗則が、道真没後、自作の木彫りの像を神として祀りました。

またそれまでに六歌仙在原業平と詩歌管弦の会も開きました。

『海ならず』・『このたびは』・『桜花』等の歌碑があり、桜花の作曲は、横山邦子先生です。

R6/6・7月の予定

5/19(日)京都府総連剣詩舞コンクール　京都教育文化センター
5/26(日)一般研修会 「和歌・俳句」　長岡京こらさ 13:30～
（講師：賀堂流総本部普及部長 小川 賀淳豊先生）
6/ 2(日)クラウン吟詠コンクール　尼崎市総合文化センター
6/ 9(日)京都府連コンクール一部・ジュニア・シニア ラポール（事務局）

定例発表会を楽しく開催 ！！

わかたけ詩吟クラブ　長尾賀秀剣

わかたけ詩吟クラブでは、桜の開花には少し早いが清々しい気候の 3 月 24 日(日)に、5回目の発表会を開催しました。他クラブの応援も得て、12 名で絶句、律詩、和歌、構成詩そして合吟も含めて 26 題を発表しました。

緊張感も有る中で「楽しく」をモットーに、リラックスして和やかな雰囲気の発表会となりました。来年も実施出来るように、稽古に励み準備を進めます。皆さんの応援をお願いいたします。

詩吟を吟じるにはほど遠い

わかたけ詩吟クラブ　山口勝弘

さて、80歳になって手習いを始めた詩吟。素晴らしい漢詩や和歌など心揺さぶる文にあい、心がときめいてきます。作詩者の心を思い浮かべながら吟じたいと思っています。しかし約束事が多く、それにとまどいながら心情がおろそかになりがちになります。音の緩急・遅速の調整や、間の置き方などテンポやリズムが難しいです。

音階のミ、ファ、ラ、シ、ドに注意がいかなくなることがあります。故郷への郷愁、悲しみ、怒りなど人生の悲哀、自然の情景など思いがこもっていないことがあります。いまは、吟じる楽しさまではいかず、さわやかな気持ちまでは到達できないでいます。

今後、練習を重ねることで、声にリズムができて、作詩者の心を表現できるだろうかと思います。まだまだ心を感じるよりも約束事を守るのに必死で、豊かな気持ちにはほど遠いと思っています。

悪戦苦闘でみんなに励まされて、一歩前進一歩後退を繰り返しています。

習い始めはこんなもので仕方がないのでしょうか。最初の困難を避けては何もできないことは分かっているつもりですが、年寄りの冷や水と言われないように、無理を承知で頑張っていきたいと思っています。

『わたしの春風』

市川富美子

体力の衰えは緩やかにやってきます。階段を踏み外して脛を打ち、『これではいかん』と一念発起してウオーキングをはじめたのは何年前のことでしょう。

高野川・鴨川の河川敷を歩くのが私のコースです。当初は毎日歩いていましたが、いかんせん元来の怠け癖が顔を出し、毎日が一週間に 1 回となり、空を見上げて『今日は雨が降りそうだし、明日にしようか』なんて、のらりくらりのウオーキングで脚力の衰えを防げるわけもなく今に至っています。

川端通りの桜並木は今が盛りと咲き誇っています。その脇を歩くと、『あら、来たのね』と声が聞こえてくるようです。

土手には、春の草花が所狭しと顔を出しています。ヨモギを見ると幼いころの餅つきを思い出します。母に頼まれて摘んできた山盛りのヨモギをすり潰し、土間の石臼に蒸し上がった餅米を移し、そこにヨモギを入れて餅つきが始まります。

ペッタン、ペッタンという音に混じってペチャンという音とともに飛び散る水しぶきがかかって、キャー・キャーと大騒ぎした我が家の春の恒例行事を思い出します。

先日教えてもらった白居易の詩は、『春風我がために来ると』詠んでいます。生きとし生けるもの全てが、春風は自分のために訪れてくれるのだということのできる幸せな季節だと改めて思いました。

シルバー川柳のご紹介

前回いかがでしたか？ 今回も楽しい川柳をお届けします。

・手をつなぐ　昔はデート　いま介護
・お辞儀して　共によろける　クラス会
・起きたけど　寝るまで　特に用事なし
（詩吟があるでしょう！）
・医者と妻　急に優しく　なる不安
・「アーンして」　昔ラブラブ　今介護

『ぎんまい長岡京』　編集室
編集委員長　後藤賀秀香
編 集 委 員　宮小路、櫻澤、本庄（庄）
※連絡・問合せ先　後藤賀秀香
Tel: 075-331-0241